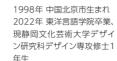
COLUMNI COLUMN

● シリーズ **私の見た日本 Vol.206**

障がい者に優しい日本の空間づくり





王 鶴潼(オウ カクトウ)

建築とは、人が活動する場所をつくること である。だからこそ、常に人の行動を観察し、 人の希望を聞くことが大切である。それはユ ニバーサルデザインの本質、できるだけ多く の人が利用できるということとつながりがあ ると私は思う。

日本に来る前、私は日本の建築領域に興味 を持ち、大学院への進学を目指していた。日 本に着いてから街を歩き、最初に目に入った のは高層ビルだった。時間と共に大都市の生 活に慣れるにつれ、最初は気がつかなかった 路上の電柱、道ばたの植物、道路標識など も見えるようになった。その中でも特に、私 の目に止まったのは点字ブロックだった。都 市環境の美化のため、日本の道路は常に清 潔感が保たれており、ゆえに点字ブロックが 非常に目立っていたのである。さらに、それ は横断歩道などの公共の場にも設置され、障 がいがある方にとってすごく優しい環境だと 思った。

母の友人は数十年前から日本で生活してい た。その人には視覚障がいがあり、いつも日 本の生活の便利さを語っていた。日本の住環 境に対する、障がいのある外国人からの評価

が高い理由は納得がいく。点字ブロックに沿 い、横断歩道にある音響式信号機の音を聞 いて歩くことを想像するとかなり大変なよう に思われるが、目の不自由の方にとってはそ れが日常で、目が見えないからこそ、耳、手、 足、記憶力などのほかの感覚は人より何倍も 使っている。空間の変化や小さな仕組みは、 彼らに大きな影響を与えているのである。

空間から人への影響について、私が一番 印象に残っているのは静岡市の葵小学校であ る。葵小学校は特別支援学級が開設され、 自閉症・情緒障がいや知的障がいのある学 生がクラスを分けて授業を受ける。特に自閉 症・情緒不安定の学生にとって良い学習生活 空間をつくるためには、様々な工夫をしなけ ればならない。自閉症・情緒不安定のある学 生は、落ち着かない、イライラするというこ とがよくあるため、クールダウン(自分の情 緒を整理する)の時間が求められた。よって、 葵小学校は校内のいくつかの場所をクールダ ウンの場として用意した。教室の奥、窓側に ある目立たないスペースに1つの隠れ場所を つくる。クールダウンをする時に、必要があ ればドアを閉めることで、より小さな空間が

できあがる。2枚の板だけで簡単にでき、さ らに実用性と安全性の両方をあわせ持つ、優 れた空間づくりだと私は思った。また、クー ルダウンの時間が欲しい学生用に用意した教 室である。部屋自体はそれほど大きくない、 2~3人用の小さな部屋で、かなりリラックス ができる空間だと思った。入り口付近には、 人の視線を遮断できるほどの高さのカーテン が設置され、学生の個別空間をつくり出して いる。そのほかにも、トイレの入り□にベン チが設置され、普段学生がおしゃべりをする 場所になったり、必要な時にはクールダウン の空間として使われたりしている。

葵小学校などの学校教育施設以外にも、 情緒障がいがある子どものための社会福祉 施設が日本各地に開設されている。「まごこ ろ学園 | はコミュニケーションや対人関係など に困難を持つ子どもを対象とした福祉施設で ある。施設内には居室や食堂、訓練作業室、 プレイホールなどいろいろなエリアがあり、 空間の豊かさが感じられる。まごころ学園の 最大の特徴は、斜めに並列した居室棟である。 障がいがある子どもそれぞれの居場所を強 調するため、各部屋の外壁はそれぞれ異なっ た色が使われている。ギザギザとした特殊な 配置で、廊下の端からでも、色とりどりの壁 がはっきりと見える。また、私がもう1つ気 になった空間は食堂である。子どもに生活感 を感じてもらうため、半個室構造になってい て、まるで家のリビングにいるかのような雰 囲気を生み出している。まさに「孤立しない 主体的な空間」というものが感じられた。同じ く、藤本壮介建築設計事務所がデザインした 「情緒障害児短期治療施設 生活棟」も、情緒 障がいのある子どもにとって優しい空間と なっている。施設全体は白い建物で、情緒障 がいのある子どもにとって落ち着きやすい空 間である。「隠れられる場所」を1つのキーワー ドとして一つ一つの空間が建てられ、子ども たち自身が建物を選んで逃げ込むことができ る。廊下の片隅には小さなスペースが設置さ れ、少人数で静かに会話ができるということ からも、独立性とつながりの両方が感じられ

社会福祉の先進国として日本は、障がいの ある人が他者と共生できる社会を目指し、 様々な福祉施設や制度が整備された。特に 子どもの場合には、教育を受ける場として特

る空間になっている。

別支援学校、地域の学校の通級学級、特別 支援学級などの学校教育施設があった。確か に特化した教育システムや環境が用意されて いるが、それだけではなく、地域の子どもと の交流も要素として盛り込まれていることが わかった。

障がいのある子どもにとって、障がいのな い子どもや地域の障がいのある人・子どもと の触れ合い、交流、共同学習は非常に重要 であるとされる。このような機会は、社会性 を身につけ、人間性を養う機会となるため、 それらを支援する環境が整備されることは大 きな意義があると考える。また、「視覚障害 教育のあり方に関する実態調査報告書 1 1 にお いては、「地域にある学校の通常の学級との 交流を求める声が多いものの、その機会が 少ないこと が指摘されている。

以上のことから、社会性と人間性を育むた め、障がいのある子どもの交流のきっかけと なる「場所」を増やす必要があると考える。

そこで、私は自分の研究テーマを検討した。 それは視覚障がい児童を対象として、視覚障 がいの特徴に応じた学校の設備を確保すると 共に、もう一つの交流空間として使われる学

びの場についての考察を通して、空間提案を おこなうことである。研究における、デザイ ン提案の対象児童について検討をおこなうべ く、まずは視覚障がいの程度、およびそれら に応じた教育システム・施設の対応状況を整 理する。そして、対応する施設のデザイン例 について調査をおこない、提案のための基本 条件を整理した上で、空間デザインの検討、 検証をおこなっていくつもりである。

空間に対し、人それぞれが異なったイメー ジを持っていて、それは子どもも同様である。 私が目指したのは華やかな空間をつくること ではなく、修士課程2年間の中で私が見たこ と、聞いたこと、学んだことを活かし、障が いのある子どもと障がいのない子ども、両者 が共に楽しめる空間、一緒におしゃべりをした り、遊んだり、つながりを生み出す空間を私 はつくりたい。

(翻訳:静岡文化芸術大学 国際文化学科2年 吉方 柚名)

引用文献

1) 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合: 「視覚障害教育のあり方 に関する実態調査報告書1.pp.73, 2020

i まごころ学園・まごころ寮HP https://www.magokoromitsuke.ip/(2022.11.20最終閲覧)

TD.障がい児入所施設 「まごころ学園 | にみる居場所のデザイン:前 編/子どもたちを取り巻くデザインvol.3,2020 https://www. td-media.net/report/design-around-kids-vol-3-1/ (2022.11.20最終閲覧)

TD.障がい児入所施設 「まごころ学園 | にみる居場所のデザイン:後 編/子どもたちを取り巻くデザインvol.3,2021 https://www. td-media.net/report/design-around-kids-vol-3-2/ (2022.11.20最終閲覧)

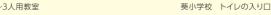
ii 新建築テータ2006年9月号174P. 情緒障害児短期治療施設 生活 棟 https://data.shinkenchiku.online/articles/ SK_2006_09_174-0 (2022.11.22最終閲覧)

Kenchiku HP.インタビューNo.007. 「隠れられる場所」 2007年度 日本建築大賞受賞作品/情緒障害児短期治療施設

https://kenchiku.co.ip/online/interview/interview_no007. html (2022.11.22最終閲覧)









38 KINDAIKENCHIKU JANUARY 2023 KINDAIKENCHIKU JANUARY 2023 39